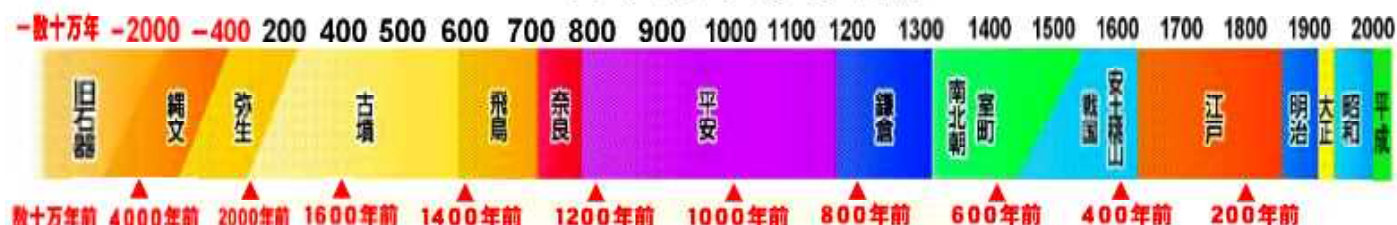


原始時代～古代の尼崎の歴史は？

尼崎市立地域研究史料館の「図説尼崎の歴史」には年表で次のようにまとめられています。今から1万2千年前に氷河期が終わって、暖かくなると土器や石器を使った縄文時代が始まります。このころの人々は、狩りや漁、木の実の採集などで食料を得ていました。当時は尼崎のほとんどは海でしたが、旧石器時代に北部から少しずつ人が住み始めたようです。弥生時代になると、中国大陸から稲作が伝わり本格的な農業が始まりました。

日本史の時代区分



原始・古代	縄文時代	現尼崎市域の多くは未だ海であった。現在まで市域に縄文時代における定住を示す明確な遺構は確認されていない。
	弥生時代	海退と沖積層の堆積により陸地化がすすむ。上ノ島・田能・武庫庄など、市域北半部の各所に集落が形成される。
	古墳時代	池田山古墳・水堂古墳をはじめ、市域北半部に数多くの古墳が築かれた。
	7世紀	この頃、猪名寺の地に法隆寺式伽藍配置の寺院が造営された（猪名寺廃寺）。
	710 (和銅3)	3・10 平城京遷都。
	756 (天平勝宝8)	この年、猪名の地が東大寺に勅施入される。これにより猪名荘が成立した。
	794 (延暦13)	10・22 平安京遷都。
	998 (長徳4)	この頃、東大寺領猪名荘の荘田は八五町余りであり、ほかに野地一〇〇町、浜二五〇町を有していたとされる。
	1084 (応徳元)	8・10 鴨社領長洲御厨が成立。この土地をめぐって、鴨社と東大寺の争いが14世紀前半頃まで続く（東大寺・鴨社相論）。
	1185 (文治元)	11 兄・源頼朝と不和となった義経が、再起を期して大物から船出するも嵐のため難船、和泉浦へ逃亡した。